

# 山形県育成品種の紹介

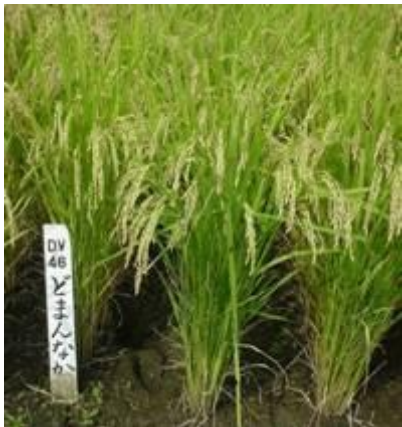
## 水 稲「はえぬき」



組合せ：「庄内 29 号」×「あきたこまち」  
熟期・稈長・草型：中生の晩・短稈・中間型  
特徴：(財) 日本穀物検定協会の食味ランキングで連続「特A」にランクされている良食味の本県主力品種である。耐冷性が強く、耐倒伏性は極強、白未熟粒の発生が少なく、収量・品質が安定している。

(登録番号：第 3346 号、登録年：平成 5 年 1 月)

## 水 稲「どまんなか」



組合せ：「イブキワセ」×「庄内 29 号」  
熟期・稈長・草型：中生・中稈・中間型  
特徴：中山間地帯の主力品種あるいは平坦部の組合せ品種で、登熟が速く、ササニシキより品質、食味が優れる。有利な点として耐冷性およびいもち病圃場抵抗性が上げられる。

(第 3345 号・平成 5 年 1 月)

## 水 稲「雪化粧」



組合せ：「アキユタカ」×「び系 94 号」  
熟期・稈長・草型：中生・中稈・偏穂重型  
特徴：耐肥性が優れ、多収である。白米吸水性や消化性に優れ酒造用掛米に適している。やや大粒で腹白粒が発生しやすく、食味がやや劣る。耐冷性が不十分で、胴割粒が発生しやすい点に注意が必要である。

(第 3344 号・平成 5 年 1 月)

## 水 稲「里のうた」



(第 8547 号・平成 12 年 12 月)

組合せ：「庄 389」×「ひとめぼれ」

熟期・稈長・草型：早生の晩・中稈・中間型

特徴：平坦部の組合せ品種で、登熟期の高温、低温時とも品質が安定して優れている。耐倒伏性、いもち病圃場抵抗性が不十分である。薬培養で誕生した本県初の品種である。

## 水 稲「ゆめさやか」



(第 10966 号・平成 15 年 2 月)

組合せ：「山形 40 号」×「奥羽 341 号」

熟期・稈長・草型：極早生・中稈・偏穂重型

特徴：山間高冷地向けの極早生で、ササニシキ並の食味を備えている。葉身が長く、葉色が淡く経過する。耐冷性、いもち病圃場抵抗性、耐倒伏性がやや劣る。福島県でも奨励品種に採用されている。

## 水 稲「出羽燦々」



(第 5545 号・平成 9 年 3 月)

組合せ：「美山錦」×「華吹雪」

熟期・稈長・草型：中生・中稈・穂重型

特徴：大粒、心白の酒造好適米品種である。美山錦より栽培特性が優れ、玄米千粒重が重く、心白発現率が高い。県の純米吟醸酒ブランド「DEWA33」の原料米である。

## 水 稲「出羽の里」



(第 15119 号・平成 19 年 3 月)

組合せ：「吟吹雪」×「出羽燦々」

熟期・稈長・草型：中生の晩・中稈・偏穂重型

特徴：心白発現が良好な酒造好適米である。出羽燦々より収量性がやや劣るものの、品質は極めて良く、蛋白含有量が低く、純米酒に向く。耐冷性が強く、栽培適地は県内中山間地である。

## 水 稲「里のゆき」



(第 15534 号・平成 19 年 8 月)

組合せ：「庄 1658」×「山形 63 号」

熟期・稈長・草型：早生・短稈・中間型

特徴：本県オリジナルの低アミロース米である。アミロース含有量が 12%前後で安定している。ごはんは粘りが強く、良食味で、特ににおぎりに向く。耐冷性が強く、栽培適地は県内山間から中山間地である。

## 水 稲「こゆきもち」



組合せ：「わたぼうし」×「山形糯 55 号」

熟期・稈長・草型：中生・中稈・偏穂重型

特徴：餅の白さが際立つ、良食味の糯品種である。耐冷性、耐倒伏性が強く、多収で、玄米品質も良好である。生餅は、硬くなりやすく、大福餅などの加工に適している。栽培適地は県内平坦地から中山間地である。

(第 18546 号・平成 21 年 10 月)

## 水稲「つや姫」



組合せ：「山形 70 号」×「東北 164 号」

熟期・稈長・草型：晩生・短稈・中間型

特徴：炊飯米が白く、外観と味が優れ、極良食味である。「コシヒカリ」に比較し稈長は **15%** 短く、耐倒伏性が上回り、穂数は多い。収量はやや多く、玄米千粒重は「コシヒカリ」並である。

(平成 21 年 2 月登録出願申請)

## そば「でわかおり」



来歴：「最上早生」のカルヒチン処理

生態型：中間秋型

特徴：開花期・成熟期とも「最上早生」より 2～3 日程度遅い。食味は「最上早生」、「階上早生」より優れる。千粒重は **38g** 程度の大粒で、製粉白度が高く、そばとしての香りがよい。

(第 8611 号・平成 11 年 3 月)